

# 緑の宝



1998  
新年号  
No.6



薩埵峠からの展望

## 目 次

新年のあいさつ	P2~3
●会長 稲謙 哲夫	
●静岡県知事 石川嘉延	
●静岡県環境部自然保護課長 望月公夫	
静岡国際園芸博覧会基本構想	P4~6
●静岡住宅展に出席 ●第3回役員会を開催	P7
●第51回中央林木展示即売会の開催	
●植栽工事の設計・積算講習会を開催	P8
●地主様による緑化技術セミナー開催	
●本年度も門松を贈呈 ●外傷災害の防止について	
支部だより	P9~11
●東部支部 支部長 後藤公一	
●中部支部 支部長 関月乾彦	
●西部支部 支部長 清美仁一郎	
話題の森・お知らせ・編集後記	P12

題字／技士会会长 乗松文男

# 新年のあいさつ



会長

稻勝哲夫

平成十年の新しい年を迎えるに当たりまして謹んでお慶びを申し上げます。

旧年中は造園業界の発展のため皆々様から格別の御指導と御協力を賜り有難く厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと私共がかつて経験したことがない事件が相次ぎ、日本全国を騒然とさせました。

好況時の増税ならば、それほど問題はないのですが、長期不況下のデフレ財政政策である増税は八兆円から九兆円といわれ、信用不安も加わり日本経済は極めて厳しい状況に至つたのであります。

しかしながら我が国の円安

に依る輸出の伸び、基礎素材技術、先端技術立国としての強さは信頼すべきものが多くあることは変わりません。それは全輸出産業の七割%を占めています。

国や県、市町村に至るまで、それぞれに行政改革に努力している中で、公共工事の削減は避けて通れない道といふ国民的大合唱となつて建設業界をゆきぶつております。加えて、受注競争の激化、コストの縮減と厳しい背景が目立ちます。

こうした現実の中で私達協会員は生き残れるのか、大変重大な転機に立たされていると思います。

ご承知の通り静岡県では大きなイベントが次々と目白押しに計画され、すでに進行中

のもの、これから始まろうとするものの、業界こそつて歓迎しているところですが、財政上当初の計画通りの推進が困難であると報道があり、新年度の緑化に関わる予算に注意深く関心を持って期待を寄せているところです。

年を追うごとに早いテンポで少子化が進み、失業率も徐々に増え続け、税の負担も重く、老人王国が間もなく到来する現実の中で、生活環境を快適にしてくれる緑に対する思い入れが尚一層強くなっています。それは、小は地域花壇の整備から、大は地球環境を視野に入れた熱帯林の復元まで、緑化に関わるボランティア活動にも現れ、爆發的な広がりをもつて全国に波及し、簡単な緑化の技術的仕事は、おいおいこうした姿に変わらうとしています。

緑の必要性は誰もが一致した認識の視点ではあるかと思いますが、今日の造園業界の現状をみると、緑化産業という幻想に惑わされているのではないかという思いが横切ります。

このままでは、日本は、雪の積もったナンテンは、昔から日本画の画題にされてきた。さぞ寒い地方の植物と思われるがちだが、日本の自然分布は東海以西の暖地系の植物である。

漢字では「南天」を当てますが、「難転」にこじつけて厄払いに使われる。祝いの赤飯が風習があるが、これは見かけをよくするだけではなく、葉に含まれるナンジニンという成分の防腐効果を利用してしたものであり、種子を煎じて飲めば咳止めにも効くというから「難転」もあながちでたらめでもなさそうである。

「難転」にあやかつて今

年こそ我々造園建設業界にとつても、日本経済にとりましてもよい年でありますように。

本年も関係官庁、関係団体の皆様の御指導、御支援、御協力ををお願い申し上げ、御挨拶とさせていただ

團結と努力の一層の必要性の思いや切なるものがあります。

会員の皆様がそれぞれ協会の将来に思いをよせ、イメー

ジ化でき、確信が持てるよう

になるまでには今しばらくの

道のりがあるかもしれません。

今地球の上では、地球温暖化、エルニーニョ現象による

大変な事がおこっているよう

です。又、地中では地震変動が急速に始まり、新聞やテレビ等でも広く報道されるよう

になりました。災害がいつ来る

に決しておかしくない状況の中で、静岡県造園緑化協会

は今一度しっかりと将来を見据えて、どうあるべきかを積極的に検討し直す時期に来ている

のではないかと思ひます。

会員の皆様が素直な気持で

プラス発想を持ち協会の将来像を描きつゝ、尚層の団結と御協力を重ねてお願い申し上げる次第であります。

本年も関係官庁、関係団体

の皆様の御指導、御支援、御

協力ををお願い申し上げ、皆様

の更なる発展をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただ

## ナンテン



# 二十二世紀に向けた静岡県づくり



静岡県知事  
石川嘉延

明けましておめでとうございます。

県民の皆様には、それぞれ新年への抱負も新たに、よい年を迎えたことを慶び申し上げます。

さて、静岡県は二十二世紀に向けて、将来のグランドデザインを描いた「新世界創造計画」の実現のため、具体的な施策の着実な推進に努めているところです。

近年、日本経済を取り巻く環境は極めて厳しく、急激な変化に的確な対応が求められております。こうした中ではありますが、県民生活に身近な保健・医療・福祉サービスの効果的かつ効率的な提供や、次の世代に美しい地球を残すため、多様な環境問題に積極的な対応を図るなど、組織体制の整備を始め、行政の生産性の向上や時代を先取りした重要な課題に積極的に取り組んできました。

本年は、ふじのくに高齢者プラン21の着実な推進、がんセンターや静岡文化芸術大学の整備など福祉・医療・教育水準の一段の向上、環境対策の充実に努めていきましたが、本県の活力を支える新たな事業の育成、地震防災対策の充実強化、男女

共同参画社会の実現などの施策を積極的に進めてまいります。

さらには静岡空港や第二東名自動車道など県民生活や活発な経済活動を支える社会資本の整備に取り組むとともに、平成十一年以降順次開催してまいりますシルバー・オリンピックスや伊豆新世紀創造祭を始め、ワールドカップサッカー、国際園芸博覧会などの準備を進め、国内外との交流を一層活性化し、真に豊かで活動的で楽しく、急激な変化に的確な対応が求められておりま

す。一方、一段と厳しさを増している経済・財政状況のもと、職員の意識改革や事務事業の見直しを積極的に行い、効率的な行政の運営によって、県民の立場からもより多くの期待が寄せられています。

本県では、昨年「恵み豊かでうるおいのある県土・静岡の将来への継承」を目指す環境基本計画を策定しました。この環境基本計画は環境政策を設けて貴重な自然の保護や快適な生活環境の創造のための各種施策を開展してまいります。

自然保護課では、「花と緑にあふれる県土づくり」を進める「一家一年一本一花運動」や、都市公園や道路の緑化推進などを取り組んでいます。

また、平成十三年北市で開催される「全国植樹祭」、平成十二年の伊豆新世紀創造祭、平成十三年の「おか絆・花・祭」、さらには平成十六年の静岡国際園芸祭など、これらは今後益々重要な役割を果すものと予想されています。

# 造園緑化協会に望む



静岡県環境部自然保護課長  
望月公夫

新年あけましておめでとうございます。

造園緑化協会の皆様には、日頃から本県の環境緑化行政の推進にご協力をいただき、ありがとうございます。

環境問題についての県民の関心は年々高まり、ごみ・生活排水など身近な生活環境といったら、オゾン層の破壊や地球温暖化といった大規模の問題まで幅広く論議されるようになってい

ます。造園業界の役割も今後益々重要になります。生産系や景観に配慮した質の高いづくりに役立つことから、より質の高いものが求められています。

本県では、昨年「恵み豊かでうるおいのある県土・静岡の将来への継承」を目指す環境基本計画を策定しました。この環境基本計画は環境政策を設けて貴重な自然の保護や快適な生活環境の創造のための各種施策を開

展開してまいります。

自然保護課では、「花と緑にあふれる県土づくり」を進める「一家一年一本一花運動」や、都市公園や道路の緑化推進などを取り組んでいます。

また、平成十三年北市で開催される「全国植樹祭」、平成十二年の伊豆新世紀

創造祭、平成十三年の「おか絆・花・祭」、さらには平成十六年の静岡国際園芸祭など、これらは今後益々重要な役割を果すものと予想されています。

博覧会などの大規模イベントが次々と開催されることとなっています。

これらのイベントを通じて、緑化への関心を一層深め、花と緑にあふれる県土づくりを推進していきたいと考えています。

このようなことから、緑地の量的拡大はもとより、緑化の質的向上が求められます。

地域の特性を生かした個性ある豊かな景観を形成する環境緑化行政が望まれています。造園業界の役割も今後益々重要になります。生産系や景観に配慮した質の高い技術が必要となります。

技術の承認のとおり、造園工事業は、平成六年の建設業法改正により、良質な建設生産物創造が可能となるよう指定建設業者に上げられました。このため、建設業者の許可を有する各営業所には、一定の施工管理技術が設置され、高水準の施工技術が確保されることとなっています。

技術会議は、これまでにも緑化技術の向上を重視し、造園業の特殊性を頭痛にいたる研究などにより知識の普及に努めてきました。

今後とも、年々多様化し、進歩する绿化工事、施工管理技術に対応できる技術者の育成に努め、県の環境緑化施策へのより一層のご支援とご協力を

お願いいたします。

結びに、造園緑化協会の益々の発展と会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。



## つくりあげる、対話・創造

●育成型の園芸博づくり

●情報ネットワークの積極的な活用と企画段階からの県民参加の推進。

●インターネットの活用や新たな情報誌の発行など幅広いネットワークづくりの推進。

●地域の人材育成や支援体

●市民グループ、学校、企業など園芸博を支援する地域の人材育成、組織育成。



キュー植物園

## (4) 幅広い分野からの参加の推進

●テーマに関連した生活、産業、技術、芸術、文化、環境など幅広い分野からの参加推進。

●テマによる運営など多様な参加公募の早期展開

●学校教育との連携による児童生徒の参加推進。

- ②企業参加
- 花と緑の関連団体ほか、産業の新发现分野など、多彩な企業の参加推進。
  - ③公共団体参加
  - 県内市町村の主体的な参加推進及び相互の交流ネットワークの早期創設。
  - 国・都道府県・県外市町村の参加促進。
  - ④海外参加
  - アジアをはじめ世界各国に対する積極的な参加招致活動の展開。
  - ⑤魅力ある交通手段の検討

## (6) 国内外の花と緑の関連イベントや各種イベントへの積極的な参加

●国際園芸学会承認の国際園芸博をはじめとする国内外の各種イベントへの積極的な参加。

●来場者の快適さを重視したなかで、幅広い参加を得るために観客誘致活動の戦略的展開。

●来場者に役立つ交通施設の先行的整備

●居住者の利便性向上や産業の活性化、観光振興など地域振興に役立つ交通施設の先行的整備。

●地域振興に役立つ交通施設の先行的整備

## 2-3 園芸博の開催 （会場の設営）

### (1) 出展・行催事の方針

- 「多様な行催事等の展開」  
（国際園芸博にふさわしい花と緑の多様な交流を実現し、新たなくらしの創造に寄与する幅広い分野での多様な出展・行催事等を展開する。）
- ①出展の方針
- 「多彩な交流のため多様な出展」  
（多彩な交流のため多様な出展）
  - 「園芸・造園産業の振興・発展に寄与する人・モノ・情報の交流の実現。」  
（新たな暮らしの創造に寄与する幅広い分野での企業、団体の出展）
  - 「従来のバリエーションのよくな出展参加形式を越えた新たな形式の創造。」  
（新たな暮らしを創造する産業や、新たな産業発展分野のための、企画の自由度や新鮮さが重視された出展。）
  - 「新たな暮らしを創造する産業や、新たな産業発展分野のための、企画の自由度や新鮮さが重視された出展。」  
（伝統的な園芸・造園文化のり返り、花と緑を活用した未来社会を考える出展の展開。）



セントジェームスパーク（ロンドン）

●快適な会場と園芸博のイメージアップを図るための魅力ある交通手段の専門検討

●適切な交通管理の推進

●円滑な会場を図るため、適切な交通管理の推進。

●快適な会場と園芸博のイメージアップを図るための魅力ある交通手段の専門検討

側がテーマに沿った形でサービスする新しい方式の展開。

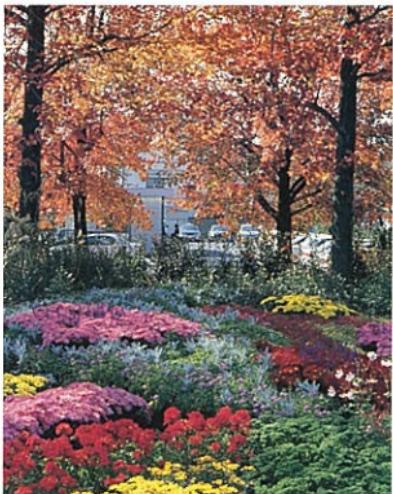
## 2-4 園芸博の開催後

### 「新たな資産の維持」

(3) 新しいライフスタイルの普及と地域まちづくりの推進

- ・園芸博で創造された新しいライフスタイルの普及、啓発。

・園芸博の成果を生かした美しい地域環境づくりと潤いのあるまちづくりの推進。



広島都市緑化フェア

### (3) 会場整備の方針

#### 「五感ときめく会場づくり」

浜名湖畔の木や緑の美しい自然環境を生かし、すべての人々の感性に訴え、ときめきをもつ快適な会場づくりを行う。

#### ① 五感ときめく空間

音を感じ、光、香り等で五感がときめき、新たな感動を呼ぶ空間づくり。

#### ② 豊かな水を楽しむ湖畔の空間

浜名湖の水景を取り入れたにぎわいやくろぎの空間など、新しい浜辺環境の創出。

#### ③ 新しくらしが体験できる空間

花と緑にかかる豊かさやゆとりが体験できる、新しくらしの空間づくり。

#### ④ 二十一世紀の魅力的なまちづくりの展開

現代の「まち」が抱える課題に挑戦した二十一世紀のまちづくりのモデル空間づくり。

#### ⑤ 次代につぐ空間

地域の将来構想、地域環境の長期的展望、園芸博終了後の施設の利活用など、様々な長期ビジョンに基づく空間づくり。

### (1) 地域産業の振興

・地域企業の参加の成果を生かした産業の一層の振興、新産業の創出などを推進。

#### ① 会場ほか県内各地の花・緑関連施設などへの来訪者の実績を生かした

全県域の観光振興。

(4) 効果的な跡地利用の推進

・公園としての効果的な跡地利用と新規の開拓によるまちづくりの推進。

#### 能の維持発展。(完)



広島都市緑化フェア

### (2) 國内外との交流と情報発展

・園芸博への参加、交流により形成された情報ネットワークの維持、発展。

・国内外や国際レベルの花と緑の情報の蓄積と世界に向けての情報発信の提

#### 出

・園芸博によるサービスの提供

#### ・会場の様々な場面で、花と緑のある新たな暮らし

ができるような、幅広い来場者

### (2) 来場者サービスの方針

#### 「新たな暮らし方が体験できるサービスの提供」

会場の様々な場面で、花と緑のある新たな暮らし方が体験できるよう

できるよう、幅広い来場者

### (3) 施設参加によるサービス

#### ・単なる物品提供でなく、参加

できるよう

できるよう

- ・未来への提言を感じさせる行催事の展開。
- ・多様な参加方式を提供し、多くの新たな交流を生み出す行催事の展開。
- ・花や緑や水などの会場の良さを生かした行催事の展開。
- ・出演者と観客、観客と観客のコミュニケーションが生じて、全員が参加する喜びを感じられる行催事の展開。

- ① 来場者サービス
- ② 運営サービス
- ③ 施設参加によるサービス

- ・高齢者や身体障害などの弱者に配慮した運営サービスの展開。
- ・会場の様々な場面で、花と緑のある新たな暮らし方が体験できるよう、幅広い来場者

- ・地域の特色ある個人や団体の販売者など多様な主体の営業参加の導入。
- ・博覧会を契機とした新たなサービス形態や新製品の開発。
- ・準備段階で構築された支援ネットワークの活用によるボランティアなどの賛助参加が目に見えるような運営の展開。

- ・園芸博での開催後、新たな暮らし方が体験できるサービスの提供
- ・地域の将来構想、地域環境の長期的展望、園芸博終了後の施設の利活用など、様々な長期ビジョンに基づく空間づくり。

#### ② 豊かな水を楽しむ湖畔の空間

浜名湖の水景を取り入れたにぎわいやくろぎの空間など、新しい浜辺環境の創出。

#### ③ 新しくらしが体験できる空間

花と緑にかかる豊かさやゆとりが体験できる、新しくらしの空間づくり。

#### ④ 二十一世紀の魅力的なまちづくりの展開

現代の「まち」が抱える課題に挑戦した二十一世紀のまちづくりのモデル空間づくり。

#### ⑤ 次代につぐ空間

地域の将来構想、地域環境の長期的展望、園芸博終了後の施設の利活用など、様々な长期

#### ビジョンに基づく空間づくり。



## 静岡住宅展に出席



セミナー講師を務める望月中部支部長

いつもながら中部支部の会員に頼つての出展であるが、今回の出展のポイントはテーマ「トン日本の建築の木、紙、竹との調和に、不二見造り」を出し、住まいに合わせた庭造りのセミナーも開催した。

九月二十日から二十三日まで、ツインメッセ静岡に於て開催された「'97住まい博・静岡県住宅展」に協会も協賛するとともに、「住宅展造園コンクール」を出し、住まいに合わせた庭造りのセミナーも開催した。

いつもながら中部支部の会員に頼つての出展であるが、今回の出展のポイントはテーマ「トン日本の建築の木、紙、竹との調和に、不二見造り」を出し、住まいに合わせた庭造りのセミナーも開催した。

国土本(株)佐野代表取締役の御苦労でメイン会場の中央部にモニメントと庭園を作設し、協会の名をアピールした。セミナーでは天野園芸(株)望月代表取締役がスライド等を使用して、同一区画のアプローチの考え方や庭園等の講話を好評を得た。

一日、日興会館で開催することに決定。賀詞交歓会意義あるものにするため実業界のトップを招いて記念講演も同時に開催することになった。

また会報新年号は松の中に園芸や関係機関に配布できるよう発行に努力する。

造園緑化のプロバイダーとして、各種プロジェクトにおける緑の役割、創演出にて研究を行なうプロジェクト研究会を設けその成果を関係機関へ提案していく。

八件もあり、毎日



協会提供的会場風景

## 第三回役員会開催

十一月十八日、日興会館に於て本年度第三回の役員会を開催した。

議題は上半期の事業進捗状況と新年賀詞交歓会の開催、大型会報「新年号」の発行、大型プロジェクト研究会の設置、その他であった。

新年賀詞交歓会は一月二十日間、静岡市駿府公園に於て

展示即売会の開催

主催による恒例の植木展示即売会が開催され、二万人の来客でにぎわった。

この植木展示即売会は昭和四十八年に始まり、毎年春秋に開催し、すっかり静岡市の風物詩として定着した。組合員三十八社が二万点を出し、主に一〇〇円から一〇〇円の手頃な価格の実なるビラカンサやツバキ、サザンカ等が売れていた。

協会として例年どおり後援

し、緑化相談所を設けその相談にあつた。相談員には農業試験場を退職された佐野利男さんを依頼するなどともに協会中部支部の有大石造園、(有)富士昌造園、(株)岳陽グリーンの三社があたり、庭作りの基本や花木の施肥、害虫防除など様々な内容の相談が八十件もあり、毎日にぎわいを見せ、市民の緑に対する関心の深さが伺われた。

その他の、二〇〇四年に開催される「静岡国際園芸博覧会」に向けして今後の協会のあり方等について意見がだされた。



植木展示即売会風景

主催による恒例の植木展示即売会が開催され、二万人の来客でにぎわった。

また、博覧会の雰囲気を盛り上げるため、西部支部が西部地区のボランティアグループ、花の会等と連携をとつて

体耕田やボケットパーク等を利用した花一杯運動を展開しようということが決定された。

## 積算講習会の設計・開催

## 郷土種による緑化技術セミナー開催

## 本年も門松を贈呈

十一月二十一日、もくせい会館に於て、県公園緑地課課長補佐 永田司良氏ほか二氏

協会主催の「郷土種による緑化技術セミナー」が始まった。

第一回は十一月十二日、国立科学博物館 近田文弘博士

(株)インブル 野口英昭常務理事の両氏を講師に迎え、

それも静岡県産業経済会館に於て開催した。

第二回は、十一月二十七日に

野口英昭氏と森林文化協会技術顧問 山中寅文氏を迎えて考

るなどという思想を結び付けて考へられるようになつた。

今年こそは良い年でありますように。

のより所と考えられていて、邪氣悪魔を払い、その年の繁榮の祈願がこもつてゐる。

つたのは室町時代頃から、さ

らに梅を加えるようになった

のは徳川時代頃と言われてい

る。この時代になると時政

策のより所とされた朱子学か

ら松竹梅にも意義付が行わ

れたが、終日、熱心にメモを執

る姿が見受けられた。

受講生は当初予定した員数よりも少なく七十名ほどであつたが、終日、熱心にメモを執る姿が見受けられた。

今回、公共工事の積算が從来の歩掛による積み上げ方式に代つて、実勢価格の機動的な反映、積算実務の合理化・少力化を目指して平成五年度から建設省が導入している「市場単価方式」を理解、活用していくため開催したものである。



講師の永田氏

日、二月五日の二回である。

このセミナーは都合五回のシリーズで残りは一月二十二

日に耳傾けていた。近田氏もこんな熱心な講座は珍しいと感心されていた。

一回目と三回目は、野口氏の和名と県内の分布、山中氏の実物種子を使っての種子の形態、取り扱い、ときには種子を使ってのアルコール作りなどの講義に参加者は熱心にメモをとつていた。

このセミナーは都合五回の

この寄付を始めて十年になるが、戦後、新生活運動の名のもとに、日本文化の一つかつた門松の姿が消えて久しく、今は官庁や大きな事業所くらいになつてしまつた。

それだけに、この門松は年末、年始に県庁を訪れる県民の皆様に目の保養をしていただい

て、今後事業が実施されることとなりました。特に今年度は、第八次労働災害防止五ヶ年計画の最終目標であることが、災害防止活動の一層の徹底を

いた大切にしたいと思う。安

日本には、古来、常盤木は神や靈の宿る神聖な木であるといふ思想があり、門松も神

そ達成されると思ひます。特に近年は業務上の交通事故や高齢者の災害事故が多発しております。平成八年度の労働者死傷病歟数で、四十才以上が全体の六割も占めています。労働者も年々高齢化し腰痛も増加している現状で、労働者が指導する「職場における腰痛予防対策指針」の遵守も大切なことであり、特に人力による取扱重量が作業者の体重の概ね四〇%以下とされています。今年こそは良い年でありますように。



県庁正門に立てられた門松

## 労働災害の防止について

啓蒙労働委員長 乗松文男

この寄付を始めて十年になりますが、戦後、新生活運動の名のもとに、日本文化の一つかつた門松の姿が消えて久しく、今は官庁や大きな事業所くらいになつてしまつた。

それだけに、この門松は年末、

年始に県庁を訪れる県民の皆

様に目の保養をしていただい

て、今後事業が実施されることとなりました。特に今年度は、第八次労働災害防止五ヶ年計画の最終目標であることが、災害防止活動の一層の徹底を

いた大切にしたいと思う。安

全は、現場で働く人々の自覚と意識の高揚は勿論であります。しかし、労使が一体となつてこ

私共園業でも、民間工事で本年二月十四日に、熱海市において死亡事故がありました。亡くなられた人は六十七歳の男性で、日曜の午後となりました。特に今年度は、第八次労働災害防止五ヶ年計画の最終目標であることが、災害防止活動の一層の徹底を

いた大切にしたいと思う。安

日本には、古来、常盤木は神や靈の宿る神聖な木であるといふ思想があり、門松も神

県が発注した土木工事で、法面の下草を草刈機で除草する作業中に、刈った草を集めていた被災者がつまずいて転倒し、草刈機の刃が首に当って死亡というように、安全対策が万全であれば発生しなかったと思われる事故もあります。

安全な作業の遂行には、各事業所内において「安全衛生教育、訓練」を実施し、作業員に必要な技術、知識を習得させることだと思います。

自主的な現場安全パトロール等も、災害防止対策に効果があると思います。通り一遍に行うだけでなく現場の状況に合わせた指導、チェックが必要であり作業員の安全意識をより高めていく事であります。

私が今後実際に会員の現場に安全指導のパトロールを行いう時、安全第一を念頭に置き実施する事です。

作業員の服装は大丈夫か、上着の袖口、ズボンの裾等がしつかりと固定されているか。袖口や裾が乱れていると物に引っ掛かり転倒したりします。喫煙所は定められていますか。くわえ煙草で作業をしているのか。機械器具等の取扱いは、作業中以外は必ずエン

ジンは止めてあるか。ダンプトラック等積荷の上に作業員が乗っていないか。過積載はしていないか。建設機械の運転手は免許證を携帯しているか。無資格者が運転操作をしていないか。作業を行な場合の説導者の配置は、等々各々の現場の状況に合った安全指導を行なっていきたいと思います。

又、私の会社はこのようにして、労働災害の防止に努めているとか、安全作業の為に工夫した機械器具、環境の改善等、会員の皆様のご意見や作品の発表会を行なったより一層の労働災害防止の高揚につながるのではないかと考えます。

安全活動の一環としてこのようないし申しが計画されました。お頼い申し上げ、安全第一、災害ゼロを祈念します。

安全活動の一環としてこのようないし申しが計画されました。お頼い申し上げ、安全第一、災害ゼロを祈念します。

安全活動の一環としてこのようないし申しが計画されました。お頼い申し上げ、安全第一、災害ゼロを祈念します。

## 東部支部

支部長 後藤公一

していくのが精一杯と言ふ状況でした。

造園業界は無論、建設業界全体として限られた予算の中会員相互の協調か、生き残りを掛けた競争か、今までに選択の時期を迫られている現状です。苦しい選擇です。どの道を進むべきかは時間が教えてくれるでしょうが、時代に合った後、本部で審議を願う予定であります。

この委員会の改善策を待つ事なく、支部の役員会でも厳しい時代にあつた対応をしております。

今年度は七月中旬より顧問の県議先生にご同行を願つて、地区幹事会さんで実施しました。勿論、各市町村長へも地域会員とともに、陳情を致しましたが、どの公共団体も厳しい財政状態で現状を維持



視察研修のひとこま

# 支部だより



緑の相談所風景

東部支部では、この厳しい時代を迎えて、今後の協会のあり方を含め、あらゆる角度から検討していくための改善推進委員会（座長立木栄氏）を発足させ、今年度末を目安に論議検討を尽くして頂いております。この答申を受けて後、本部で審議を願う予定であります。

この委員会の改善策を待つ事なく、支部の役員会でも厳しい時代にあつた対応をしております。

今年度は七月中旬より顧問の県議先生にご同行を願つて、地区幹事会さんで実施しました。勿論、各市町村長へも地域会員とともに、陳情を致しましたが、どの公共団体も厳しい財政状態で現状を維持

するべきかは時間が教えてくれるでしょうが、時代に合った後、本部で審議を願う予定であります。

この委員会の改善策を待つ事なく、支部の役員会でも厳しい時代にあつた対応をしております。

今年度は七月中旬より顧問の県議先生にご同行を願つて、地区幹事会さんで実施しました。勿論、各市町村長へも地域会員とともに、陳情を致しましたが、どの公共団体も厳しい財政状態で現状を維持

するべきかは時間が教えてくれるでしょうが、時代に合った後、本部で審議を願う予定であります。

この他、支部では本部から委託事項の育成管理指導をする研修会にしたいと考えていますので、ご協力を願います。

更に、労働委員会主導の基に東部全体の安全パトロールを実施致します。何時パトロールがあつてもよいように、現

一環として、岐阜県恵那市の観光と木曽石の生産地現地見学会を八月に実施して、会員相互の親睦と意義ある生産地の相談所を開設し、市民への植物アドバイザーとして活動しております。

これから年末に掛けてコミニティ緑化調査指導を、地区幹事の皆様の協力を得て行っていきます。

また、年度末には、知識研修会を予定しております。支部役員会恵を出して、実のある研修会にしたいと考えていますので、ご協力を願います。

更に、労働委員会主導の基に東部全体の安全パトロールを実施致します。何時パトロールがあつてもよいように、現

場は何時も整理整頓に心がけましよう。

安全はすべてに優先します。今後は、県民市民により理解を得て、苦しい中でも一番先に切り捨てられる予算と言ふ事の無いよう、環境づくりに全員一致協力して常に努力いたしましょう。

中止する予算と、環境づくりに全員一致協力して常に努力いたしましょう。

り、やもすると行政の要望、あるいは施設の所有者の要望で施工のしつばなしが見られるなか、今回のアフターサービスに感謝され、炎天下の苦勞も救われました。

#### ●石津浜海崖での懇親会

多忙な会員諸氏、会員同志の情報交換も途絶えがち、家族サービスもままならない。

そんななか、去る八月二十日、焼津市石津浜海岸で懇親会を開催した。参加者は大人四十名、子供二十名、総勢六十名が網引きに汗を流し、バ

校外の実習は初めての生徒が大部分でとまどったよう

に

の会社でもじめで、真剣に

取り組んでいました。

静鉄緑化土木(株)では女性徒も加わり、いわゆる造園建設業以外の、市場からの花の仕入れや店舗への展示など興味深く実習に励んでくれた。

勿論、造園部門の設計や芝張り実習なども行い、わずか四

日間であったが浅く、広く実習ができたと思う。(安本謙)

以下、(株)静岡グリーンサービスで実習した成岡まゆ子さん

の反省・感想文。

測量はすごく簡単になった

が集まるような池を造るとか

よく考へているなあと感心し

たし、説明もとてもわかりやすかった。

ばんにでてきた。植物や昆虫

が集まるような池を造るとか

よく考へているなあと感心し

たし、説明もとてもわかりやすかった。

おじさんたちが大きな機械

に乗って作業をしているとや

ることがなくてひまだつたと

きもあつた。

芝刈機に乗ってサッカーフ

一ペキューに舌鼓を打つピングゲームに興じ、有意義な一日を終わることが出来ました。

●静岡農業高校生現場実習の秋号で静岡農業高校等学校の環境系生徒の実習受け入れについて掲載したが、九月九日から十二日まで、中部地区十四社で二十七名の実習生を受け入れました。

校外の実習は初めての生徒が大部分でとまどったよう

に

の会社でもじめで、真剣に

取り組んでいました。

静鉄緑化土木(株)では女性

徒も加わり、いわゆる造園建

設業以外の、市場からの花の

仕入れや店舗への展示など興

味深く実習に励んでくれた。

勿論、造園部門の設計や芝張

り実習なども行い、わずか四

日間であったが浅く、広く実

習ができたと思う。(安本謙)

以下、(株)静岡グリーンサ

ービスで実習した成岡まゆ子

さんの反省・感想文。

測量はすごく簡単になった

が集まるような池を造るとか

よく考へているなあと感心し

たし、説明もとてもわかりやす

かった。

おじさんたちが大きな機械

に乗って作業をしているとや

ることがなくてひまだつたと

きもあつた。

芝刈機に乗ってサッカーフ

の芝を刈った。

私でも運転でき

た。なかな

か楽しかった。

四日間を通じて頼まれた

ことはやつた

けど自分から

積極的に動い

たり質問した

ことはやつた

けど自分が

ちよつ

たり質問した

でなく、我々の日常生活が、薪炭材や牛馬の飼料・堆肥の材料の草が必要なくなつたことも起因しているという。必要性がなくなつたことで、里山や草原が荒廃して生態系が大きくなつてきていると聞かされ、なるほどと思った次第です。

## 西部支部

支部長 湿美仁一郎

私共西部支部は、隔月に定期例会支部役員会と支部会を開催して、事業計画に基づいた事業の推進と当面する諸問題の話し合いや情報の交換等を行い、円滑な支部運営を目指して活動を展開しております。今半期既に実施致しました主な行事と今後の予定行事は、次の通りです。

(一) 八月二十九日(金)

ボーリング大会  
各社二名参加してお互いの親睦を深めることができました。

(二) 九月十二日(金)

技能知識講習会  
郷土史研究家・神谷昌志先生



研修会参加の面々

を講師にお招きして、「江戸時代の遠州の街道」という演題で私達の身近な昔の街並を開いたり若い人達にも大変喜んで戴きました。  
(三) 十月三日(金)  
若年従業員研修旅行  
バスを一台貸し切って、岐阜県の忠那峠と庭石の産地蛭川村を訪ね博物館を見学した後多治見の寒沢を廻って帰つて

バスを一台貸し切って、岐阜県の忠那峠と庭石の産地蛭川村を訪ね博物館を見学した後多治見の寒沢を廻って帰つて

参りました。今年で三回目であります。車内で勉強会を開いたり若い人達にも大変喜んで戴きました。  
次に今後の予定と致しましては、  
(二) 労働災害防止の安全講習会・主として重機械の取扱いについて  
(二) 測量及び積算講習会  
(三) 一年の反省と観瞻を兼ねた忘年会

## 第二十一回全国育樹祭へ参加

「つたえよう 世界へ未来へ 青い森」をテーマに、第一回

二十一回全国育樹祭(主催・

青森県・国土緑化推進機構)

の記念式典が平成九年九月二十八日、青森市合子沢で開催された。

当日はあいにくの天気にもかかわらず、全国より集まつた一万人の参加者と皇太子御夫妻をお招きして式典が始まつた。

皇太子様は「青森県は繩文時代から豊かな生活と文化が育

まれてきた。これを守つてきたい県民の努力を多とします。」とのお言葉を述べられた。

統いて功労者表彰が行われる誓いの言葉、津軽三味線・「じよっぱり大太鼓」の合奏など郷土色豊かな趣向に入っていた。

最後にねぶたの星台の引き回しに会場全体が大いに盛り上がり、大会決議を宣言した後式典は終了となつた。



全国育樹祭の様子



博石館全景



以上が主な行事の予定であります。これからも会員の要望等も取り入れ、和をもつた支部活動を目指していきたいと思

